

ひめまつ

49

宇都宮短期大学附属高等学校生徒会

ひめまつ 目次

(第四十九号)

表紙絵……………川島宣子

題字……………石川木魚

写真……………写真部・編集部

随想

若い人の未来に希望を……………

校長 須賀

淳……………1

※積極的な生徒会参加を(生徒会会長に就任して)……………

古川ゆかり……………4

※二千五百の力を結集(任務を終えて思うこと)……………

本間ひとみ……………5

へ声 街で出会ったドラマに思う……………

「我流『親切』の定義」……………

三年 岡田 有紀子

「会話の先どり」……………

三年 大谷 あす香

「自転車のひとりごと」……………

三年 宇都宮奈緒子

「バスの中のうれしい風景」……………

三年 渡辺 由起子

「見える人間として」……………

一年 岩崎 葵

「近川さんとの出会い」……………

一年 小太刀 久恵

*心に強く響くもの(校内読書感想文入賞作品)……………

11

「人間失格」……………

三年 片岡 たか

「佐々木の場合」……………

二年 菊池 敦生

「今にやるぞ」……………

三年 野澤 知世

「二十歳の原点」……………

一年 田村 まい

「野火」……………

三年 池畠 志奈

「二十歳の原点」……………

一年 宇賀神 多恵

「男の本音・美人論」……………

二年 糸川 美紀

「アンネの日記」……………

一年 斎藤 美幸

「痴人の愛」……………

二年 土田 さおり

◆作品集……………

23

詩

〔三年〕高橋 美香

〔二年〕山中 直美・保喜

享・岡本 瞳・峰果 智子・菅 啓子

黒田早智恵・高橋 久美・篠原 羊一・別木美知子・坂本美由起

短歌

〔三年〕植田 直子

〔二年〕荒川 慎司

俳句

〔三年〕佐藤 祐佳・坂本 厚子

〔二年〕安島久美子・阿久津真美・青木 正樹・岡田 勝利

イラスト

〔二年〕笹沼 奈月

☆あとらんだむ

(三年) 荒川 明子・石川実也子
(二年) 石崎 智子・臺 律子
(二年) 大関 洋美

△この一年を顧みて▽

(田二年) 石川実也子・大谷あす香・駒場 雅信・荻野 春香・大澤芽衣子
(旧一年) 青木 円・五月女宜裕・鈴木あかね・出井 明子

月関西・四国・大洗・日光の旅

(三年) 北条 博隆・江部 純子・駒場 雅信・野口 直美・井原 美枝・飯塚 敬子・植田 直子
(二年) 神山有希子
(二年) 稲葉 恵子・清山 香理

招待席

柴野 芳勇・菊田 民子・和久 誠・森島 一男

◆わがホームルームの紹介

◆委員会・クラブ報告

★学園告知板

附属中コーナー

この一年間のおもな活躍・読書感想文コンクール・夏休み自由作文コンクール・生徒会・PTA役員・他

◎平成六年度生徒会活動

☒就職・進学状況	149
☒職員住所録	152
☒編集後記	157
☒奥付	158



▲決意も堅く、新しい出発の入学式(平成6年4月8日)

新総合体育館で
初の卒業式と入学式



力強く宣誓文を読み上げる
新入生代表の渡辺剛士君



◀多数の来賓や保護者も参列して、
晴れの卒業式(平成6年3月9日)



▲胸のリボンも晴れがましく開式を待つ
卒業生



校長先生ご夫妻に送られて今巢立ちゆく▶

宇都宮短期大学附属中学・高等学校

校 歌

作詩 菅谷徳次郎
作曲 野原幸夫

Musical score for the school song, featuring a treble clef, a common time signature (C), and Japanese lyrics written below the notes.

校 歌

一 二 荒の高嶺を 遙かに仰ぎ
 学びの道筋 まさきくあれと
 かたみに誓いて いそしみ励む
 教えの庭こそ げに尊けれ
 あわれ尊 この学びや

二 庭面に茂れる 姫松小松
 変らぬ操は 千代万代と
 かたみに祝いて いそしみ励む
 学びの庭こそ げに芽出度けれ
 あわれ芽出度 この学びや

▶学校祭では校史室に展示された制服の移り変わりが参観者の目を引く(10月15日・16日)



■さほこる桜の下で対面式(4月11日)



▲春風さわやかなかを1日旅行で大笹牧場へ(5月13日)

学園の四季



▲ほくらの清い血液を贈ろうと、献血奉仕(12月8日)



▲日ごろの手並みを味わっていただく保護者試食会(11月25日)



▲華やかなステージを繰りひろげるロシア民族アンサンブルの公演(9月5日)



▲本校の入試説明会には、心からの接待を…(9月16日)



▲緊張の瞬間——推薦入試の日(12月13日)



▶敬老の日には同居しているゼント生徒会からブレゼントの体育は屋上プールで



▲卒業も間近に校長先生(右端)も交えてテーブルマナーの講習(平成6年2月17日)

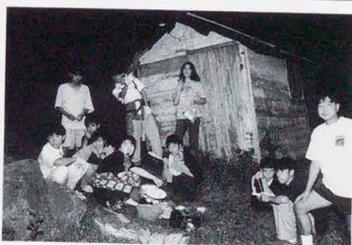
▲天候に恵まれて
楽しい日光スケート教室
(平成7年1月12日)



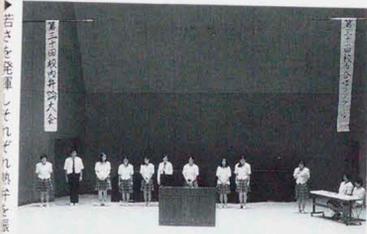
▲グラウンドいっばいに若さが
つかる校内球技大会
(7月7日)



▲裏管梯のキャンプで山の冷気
にふれる
(8月2日)



伝統行事



生徒会役員



会長
古川ゆかり

会計
広川典子

議長団
相場佐恵子

副会長
風間雅子

会計
相川麻里子

議長団
上村真巳

副会長
勅使河原隆行

庶務
入江令子

議長団
長谷川信介

若い人の未来に希望を

校長 須賀 淳^{あつし}



このたびの阪神大震災には、生徒の皆さんは大きな衝撃と悲しみを覚えたことでしょう。生徒会の義援金募集には多額の金額が寄せられました。被災者の方々は、この寒空のもと避難所で不自由な生活を送っています。そのなかで、とくにお年寄りの姿に私は大きな心の痛みを覚えました。高齢化社会といわれる時代に入り、学校でも「高齢化社会と福祉」の授業や「家庭看護と老人の介護」の実習などがとり入れられています。老人問題と福祉は大きな課題となつていふのです。さきごろ栃木県主催の「長寿社会に向けての主張コンクール」が開催され、本校の女子生徒が優秀賞をいただきました。その発表をさいていますと、今の若い人たちが高齢化社会に対してどういう考えをもっているかがよく分かりました。その中でとくに私の印象に残つたのは、「六十五歳



クラーク博士の像と本校の生徒たち（札幌市で）

以上の女性の五人に一人は独居老人になり、また寝たきり老人も痴呆症老人も女性の割合が高くなるということです。これでは仮に長寿を全うすることができたとしても、私たち女性の老後は悲しい状況になってしまうのは明らかです。また、老人を看護するのがほとんど女性だとすれば、日本の高齢化は、とくに女性にとって深刻な問題を提起することになるでしょう。私は家族全員が協力し、お互いに助け合いながら老人看護の問題を考えてゆくことを提案したいと思います。」という言葉でした。

若い人たちの未来が暗いものであつてはなりません。私たち年輩の者は、若い人たちには大きな未来が開かれているのだと勇気づけてあげる必要があると思います。

「青年よ、大志を抱け」とは、かのクラーク博士の言葉ですが、暗いといわれる現代の世の中でこそ、私はこの言葉若い人たちにあらためて贈りたいのです。

明治時代の子どもたちは、「末は博士か大臣か」と期待されました。素朴な立身出世主義の時代ではありませんが、若い人たちは、将来に大きな夢をもって生きてきました。戦争中は、子どもたちの夢は、軍人となり大將になる

ことでした。そして青年たちは、「狭い日本に住みあきた。支那には四億の民がいる」といった大陸雄飛を夢見たのです。これが戦後に「侵略」といわれることになりましたが、もちろん当時の子どもたちにはそんな意識はまったくなく、将来に大きな希望をもって勉強したのです。

いま平和で民主的な日本に生きる若い人たちの将来に、どういう夢を与えるか、これが私たち大人の大きなつとめであると思います。そのためには、日本という国を若い人たちに生きる希望をかきたてるような立派な国、立派な社会にしてゆかなければならないと思います。物は豊かになったが人の心は貧しい国、自国の歴史を否定的にのみとらえる歴史教育、こういうことでどうして若い人たちに對し、その未来に希望をもたせることができるでしょうか。

このたびの阪神大震災で活躍するボランティアの人たちや、被災から雄々しく立ち上がる人たちの姿をみると、私は決して日本は悲観するような国ではない、すばらしい国だと思えます。この大きな災害を契機として、日本の国民が心一つにして立ち上がったのです。

みなさん未来に大きな希望をもつてがんばりましょう。

【校長略歴】昭和二十四年東京大学卒業、文部省勤務、文部大臣秘書官、文化財課長、教科書課長、初等教育課長等を歴任、昭和四十三年須賀学園に戻る。
現在、須賀学園理事長、宇都宮短期大学長、同附属中学・高等学校校長、日本私立短期大学協会常任理事、日本私立中等高等学校連合会理事、栃木県私学審議会会長、栃木県公安委員長、栃木県交響楽団会長等

学園告知板

初の卒業・入学式

新しく完成の総合体育館で

新しく完成した総合体育館（四階建て・二層式）で、初の卒業式と入学式がそれぞれ行われました。

初の卒業式は昨年三月九日、同体育館メインアリーナに、卒業生九百七十名、在校生代表二百五十六名、音楽科生六十五名、オーケストラ三十五名、卒業生保護者八百二十五名、来賓五十名、職員六十名の全部で二千二百六十一名が一堂に会して盛大に行われました。

また初の入学式は四月八日に、同じメインアリーナで、本校入試の難関を突破してきた八百五十名の新入生（二十クラス）とその保護者が出席しました。

最優秀賞に和田さん

県の省資源・省エネ作文コンクール

県が行った「平成六年度省資源・省エネ作文コンクール」で二年七組の和田佑子さんが見事に最優秀賞に選ばれました。次にその作品を紹介いたします。

私たちにできること

和田 佑子

現在我が国では、重化学工業の中でも資源消費が少ない機械工業や電子工業関係の産業に比重が移り、エネルギー消費量は減少し、原動力をほじめとする代替エネルギーの開発が進んでいる、と本で読んだことがあります。

す。

そのためにも、私たちはリサイクル運動をもっと活発に行うべきでしょう。もちろん、資源消費量をいきなり大幅に減らすことはとてもできません。だから「再利用」することで消費した資源を少しずつ補っていく必要があるのです。最近清掃工場では、ゴミを燃やす熱で電気を起こすことができるのですが、その他にも、空カンのプルタブを集めると、なんと車椅子と交換してくれるのです。また、読み終わった雑誌などは再生紙として生まれ変わります。このように自分にはもう不要になった物でもどこかで役に立つ場合は非常に多いのです。使い終わったら即捨てしてしまうのではなく、その前にリサイクルできるかどうかを検討してみてください。きつとまだ使える物は沢山あるにちがいありません。

そして、もう一つ私たちにできることは、節約することです。今の時代は電化製品の生産が著しく、とても便利なので私たちの生活に欠かすことはできません。よって電力消費量はかなり

多量です。しかし、その中には無駄遣いのために消費された電気もあるのです。電気は貯めておくこともリサイクルすることもできないので、使用する量をできるだけ少量にしなければいけないでしょう。

また、最近、アルミカンをリサイクルすると、電気代が九十七パーセントも節約できると聞いてとても驚きました。しかしそれ以前に、電気や水を節約するには、まず私たちそれぞれの家庭で気を付けていかなければいけないことがあります。皆さんの家でも電気の消し忘れや水を出しっぱなしにしておくことがありますか。このような些細な事でも、多勢の人がおこなえば、結果的には膨大な消費量になってしまいうでしょう。しかし逆に考えてみると、私たちが少しづつ無駄を省けばかなりの量を切り詰めることができます。一人一人が、無駄遣いを無くしていきこうと心掛ければ、節約することは至って簡単なことなのです。

確かに、今の世の中を昔のような環境に戻すことはできません。紙などをつくるため木を切り過ぎてしまい、石

さらに最近では、生ごみを分解して土をつくったり、落ち葉を堆肥にするという技術も生まれたそうです。このような例だけを見ると十分に省エネルギーを実行していると思われがちですが、実際にはこれはほんの一部に過ぎません。

そこで、現在、資源の無駄遣いとして問題になっているものの中でも特に身近なもの一つとして、商品の過剰包装を挙げてみることにしましょう。

今までは販売店側が悪いとする考え方が一般的でしたが、本当にそう断言できるのでしょうか。私の知り合いのおばさんは、いつも買い物をする時は大きなバッグを持って行き、過剰包装を断わるのだそうです。このように私たちが断わるのですが、まず第一に必要なのではないのでしょうか。そして、今はその勇気を持つことが肝要とされているのです。周りの人がやるからというのではなく、自分から始めなければいけないという自覚を持つべきだと思います。私は省エネルギーを実行するには、まず「私たちにできること」から始めることが大切だと言いたいの

油や石炭などもどんどん無くなっていきます。空気も水もますますなくなり、海も汚れてしまいました。このような環境の中で、これからの世代の人間は何をすべきなのでしょう。

私は、前に述べたようなリサイクル、節電や節水のように資源の無駄遣いを無くすことを、習慣化していくことが第一だと思えます。私たち一人一人が、これはすべき事なのだと思覚を持って、当たり前のよう日常生活の中で実行する、そんな社会をつくりあげていくことが大切なのではないでしょうか。

今私たちの周りには沢山の省資源、省エネルギーの手段があります。しかし、私たちの日常生活の中には、まだ沢山の手段が残されていると思えます。それらの手段を見つけていくことも重要な課題だと思えます。

私たちの役割は、今自分たちにできる範囲で省資源、省エネルギーを精一杯努めることに他なりません。そしてそのような社会にしていくなためにも貴重な資源を守っていかねばならないのです。

手芸展で好評拍す

十一月七日から十日まで県総合文化センターで開かれた高校生手芸作品展に、本校から出品した作品の数々が他校を断然リードしてすばらしい成果を収めました。

この作品展は、県高校文化連盟手芸部会の主催で毎年行われていますが今年で十六回目です。

今回本校からは全国高文連大会に出品して会場を飾った生活教養科三年井原美枝さんの手描き更紗風炉先屏風のほか、二年松井美和、渡辺佐緒里、菊池智子さんらによる「こぎん刺しゅうのテーブルセンター」や相馬かよ子の菊池順子さんらのクッション、また大作的三年半田直美さんによる「ししゅうのスーツ・ドレス」などが展示され、見学者の眼を奪いました。

またプログラムの表紙には生活教養科二年伊藤幸子さんの「手描き更紗」写真が採用されました。



ロシア民族
アンサンブル
が来校・出演

一九八七年から八八年にかけて、ロシアのウラジオストクであいついで設立された、ロシア民族アンサンブルの二つのグループが九月十日、本校の須賀栄子記念講堂大ホールで華麗なステージを披露しました。

一行は演奏者、歌手、踊り子など四十人で編成され、バラライカ、ゲース、ジャレイカ、バヤンなどのロシアの古い民族楽器が奏でるリズムにのってこれも民族衣裳をまとった踊り子たちが伝統的な民族舞踊を繰りひろげ、生徒たちの拍手を浴びました。

音楽に歌に、踊りにと楽しいひとときを

きてした。

多数の礼状いただく

入試説明会の出席先生から

平成七年度本校入試説明会は九月十六日、須賀栄子記念講堂で開かれ、県内外の中学校から三学年主任や進路指導主事など百二十校、百六十名の先生方が出席されました。

この日、お茶の時間に生活教養科の皆さんの手づくりクッキーを味わっていただき、おみやげには、同じ生活教養科三年生の作品であるフラワーアレンジメント(アクセサリー)と、二年生が作ったマールケーキをさし上げましたが、大変好評で、多くのお礼状をいただきました。そのいくつかをご紹介します。

宇都宮市立星が丘中
長谷川 昌子先生より

生活教養科二年十組
若林 智美さんへ

氏家町立氏家中

小堀 高秀先生より

生活教養科二年十一組
上野 有美さんへ

先日九月十六日、宇短附の高校入試説明会に参加した氏家中の小堀です。その折、あなたの手作りのマールケーキを御土産としていただきました。家族(といっても妻と生後六か月の娘の三人家族ですが)みんなでおいしくいただきました。本当にありがとうございます。私の氏家中からも来春、あなたの後輩が入学するかもしれません。その折はよろしく願います。

塩谷町立船生中
岡島 柳子先生より

生活教養科二年九組
遠藤 真由美様

前略ご免下さい。

伝わってくるようでした。ありがとうございました。

二年生ということで、進路について考えるところがかなりあることでしょう。将来の目標にむかってがんばって下さい。

目標が実現することをお祈りしております。

九月二十日
栃木市立栃木南中
黒沢 富江先生より

生活教養科二年八組
阿部 尚子さんへ

野山の自然にふかい秋が見つけられるころとなりました。元気に勉学に励まれていらっしやることでしょね。過日のドライフラワーの麦わら帽子の愛らしいこと、本当に素晴らしい作品ですね。リビングのドアに飾らせて頂きました。どうぞこれからも頑張ってください。

九月十九日
さようなら

今日は、はじめまして。

先日、あなたの作った麦わら帽子のアクセサリーをいただきました長谷川です。

早速学校に持ち帰り、進路相談室に飾らせていただきました。

お陰様で、相談室が明るくなり、話し合いも進んでいくような気がします。本当に有難うございました。

九月二十一日
黒磯市立東那須野中
小川 幸江先生より

生活教養科二年九組
須藤 茜さんへ

先日、宇短附入学試験説明会に参加しました。帰りにおみやげということで、手作りのキーをいただきました。さっそく家でいただきました。あまくなく、上品な味で、ふだんあまりキーなど甘いものは食べない長男が「おいしいね」とたくさん食べていました。本当においしかったです。じっくり時間をかけて作られた心が

お元気で毎日を送っていることと思
います。今年は暑い日々で体調大丈夫
ですか。

さて十六日の説明会では、貴女の
作ったケーキを船生中の先生全員で
おいしくいただきました。ごちそうさ
までした。

どうぞ、貴女の将来の目標を達成さ
れるようご努力下さい。

お身体お大切に。よき学生生活を
送って下さい。

九月十七日

草々

お年寄りに贈り物

数々の礼状届く

生徒会では九月十五日の敬老の日に
恒例の贈り物としてタオルセットをお
届けしました。

これは本校の職員生徒の家庭に同居
しておられる七十歳以上のお年寄りが
対象で、男子三百五十人、女子五百五
十一人の合計九百一人でした。その中
の最高齢者は三年五組、池田真弓さん
の曾祖母、ミサヲ様で九十五歳です。
次は生徒会に寄せられたお礼状の一

部です。

宇都宮市三番町一―三

高橋 武男 様

春江 様より

この度は老人の日の御祝いの品、ほ
んとうに有難うございました。

結構なもの大事に使わせていただき
ます。

大正のはざまの富国強兵の時代に生
を受け、三度の召集に徴兵し、生きな
がらえ今日あるを自分ながら最高の幸
せと神仏に感謝致し、過ごさせていた
だいております。

学生の本文は学業です。いろいろな
知識を吸収することです。そして未来
の日本のよい社会を作して下さい。
宇短大附属高校の皆さんありがとう
ございました。

健康と精勤を祈ります。孫の由美と
仲よくお願いします。簡単なが御礼
迄に。

(三年五組 高橋由美さんの祖父母)
九月十五日

宇都宮市鶴田町一四五一

古沢 彦二 様

よね 様より

拝啓

暑い暑い夏も過ぎ急に初秋の季節と
なりました。

この度は学校から敬老のお祝をいた
だき、びっくりいたしました。本当に
有難うございました。

私達は七十六歳と七十三歳の老人で
す。孫が十三人おります。孫の成人す
るまではと楽しみにがんばっています。

学校のますますの発展と先生御一同
様、生徒会の皆様のご健勝をお祈りい
たしまして、御礼のご挨拶といたしま
す。

(三年八組 網野佳世子さんの
祖父母)

九月十七日

藤岡町都賀

水島 フミ子 様より

突然のお手紙驚かせて申しわけあり
ません。

敬老の日には心温まる品物を頂戴致
しましてありがとうございます。

た。

皆様のお力で益々よい学校を築かれ
ますようにお祈り申し上げます。どう
もありがとうございます。

(二年十九組 金山哲也さんの祖母)
九月十六日

鹿沼市府所町一五〇―二二

宇賀神 テル 様より

いつまでも暑かった夏が急に涼しい
秋となり、あわてて上衣を見つけれ
ない頃です。

昨日は思いもかけぬ贈り物をいただ
き、おやさしいお気持ち嬉しく頂戴致
しました。誠に有難うございました。

孫が何かとお世話になりました。有難
いことと感謝いたしております。毎日
楽しく通学する姿を見て、よかったです
と思います。何とぞ今後ともよろしく
お願い致します。先ずは御礼まで。

(二年十組 宇賀神藍子さんの祖母)
左様なら

栃木市大宮町二―一〇

根岸 勇 様

スイ子 様より

ご免下さい。

長く暑かった夏も急に秋めいて、大
変のぎよい季節になりました。

日頃は孫の優子が中学よりお世話に
なり感謝申し上げます。

本日敬老の日のプレゼントを頂戴致
しました。

皆様のやさしいお心にふれた様な気
が致し本當にうれしく感謝の気持ちで
いっぱいでございます。早速旅行に持
参し自慢いたしたいと思います。

ありがとうございます。

皆様も御自愛してのり大き秋にな
ります様にお祈り申し上げます。

(二年二組 根岸優子さんの祖父母)
かしこ

今市市瀬尾一〇八五―一四

東 経義 様

玉子 様より

拝復、此の度九月十五日の敬老の日
に当りましては、御校生徒会一同様の
真心籠ったお心遣いの温情溢るる祝
いの品を、孫を通じて頂戴致し誠に有難
く、感謝此の上もなく、心から厚く御
礼を申し上げます。

本来なら当人二人が差し上げなくて
はいけないのですが、家で義父は左半
身、義母は右半身麻痺していて、ベッ
ドの上で寝たきり状態ですので、長男
の嫁が代筆でごめんなさい。
きつと義父母にとって数少ない喜び
の一つになったに違いありません。皆
様にもよろしくお伝え下さい。書状
をもってお礼にかえさせていただきます
す。

最後に生徒会の皆様の御活躍をお祈
りしています。

(二年十七組 永島美樹さんの母)
九月十九日

栗野町下永野一〇四八

金山 綾子 様より

拝啓
猛暑も去り漸く涼しい季節が訪れ
ました。

生徒会の皆様、此の度は真心の籠つ
たプレゼント本當にありがとうございます
ました。

皆様の温かい御心がひしひしと身に
伝わって参ります。毎朝六時半に張り
切って家を出る孫の心がわかりまし

私たちもお陰を持ちまして七十四歳と七十一歳の年齢に達し、来年は結婚五十周年の金婚式を迎える事になります。人生航路の五十周年の道程を振り返り、波瀾万丈の時世の流れの中を、長いようで短かった過去を回想、万感胸に迫る思いに浸っております。

私達年代とは異なり、今は平和な自由と、総てに恵まれた環境下に置かれての思う存分の生活に、何と素晴らしい事か、実にうらやましき限りです。青春は二度とありません。生活に勉強に総てに全力を傾注し精励して下さい。将来の人生に必ずや報いのあることを心に、最大の努力を払われんことを願うものであります。

二十世紀を担う生徒の皆さん、身の鍛錬並びに勉強にひいては世界平和とわが国繁栄のために役立つ人になって欲しいものと願って止みません。

終りに臨み、皆さんの益々のご健勝とご奮闘あられますことを祈念し、先ずは略儀ながら書信にて右御礼返に代えさせて頂きます。

大変に有難うございました。厚く御礼申し上げます。

二年九組 藤田紗世さんの祖父母
九月十五日 敬具

礼状

創立者須賀栄子先生のご命日である十月十四日に、生活教養科では生徒の作ったエプロンを下野新聞社を通じて宇都宮市内の各施設に贈りました。これは毎年の恒例になっておりますが、今回は、自分たち手づくりのエプロン、百点でした。これはそのお礼状です。

障害者通所作業所

飛山生活センター
所長 直井 学様より

秋も深まり、大分朝夕冷えて参りましたが、お変わりもなく御通学のことと拝察しております。このたびは、通所者への慰問品として手作りの前掛けをいただきありがとうございます。早速使用させていただきます。

一枚が素晴らしく、選ぶ楽しみもいただいてしまいました。

作業生と共に働く中で、このエプロンを使わせて頂きます。指導員一同感謝申し上げます。ありがとうございます。

- 一年十組 小谷 沙 織様
- 岩瀬 訓 子様
- 宇賀神藍 子様
- 一年十一組 菊池 真由美様

戸祭作業所一同様より

菊花薫るよい季節となりました。

この度皆様方のお心のこもった手作りの素敵なエプロンを当戸祭作業所に御恵贈いただきました。誠にありがとうございました。厚く御礼申し上げます。

当作業所は、精神発達障害者の方々が毎日通って、箱折り、造花等の作業をしております。

時には、旅行、誕生会、スポーツ大会、宿泊訓練、クリスマス会等楽しみもあります。

どうぞ皆様、お近くにお越しの折にはお立ち寄り下さいますよう、お待ちしております。

平成六年度のPTA役員

- 平成六年度PTA総会は五月二十一日開かれ、次の役員を選出しました。
- 会長 松岡祐洋▽副会長 西川公也、田村昭夫、高橋禮司、岡村光教、我妻 昇▽会計 曲山実男、岩下栄造▽会計監査 村上外雄、山内光一、佐々木俊英▽顧問 須賀 淳▽相談役 岡田喜三、渡辺 衛、篠崎キミエ、六川彦次▽幹事 太田茂雄、岡田一成、佐藤みどり▽常任委員 和氣行子 他九十二名(敬称略)

しております。

皆様もお元気で頑張ってください。

とりあえず、御礼まで。

- 一年十組 高岡 杏 子様
 - 十一組 菊地 美貴恵様
 - 十二組 小林 由佳様
 - 十二組 池田 奈津子様
 - 十二組 飯塚 裕 子様
 - 十三組 飯塚 恵 美様
 - 十三組 野尻 江津子様
- 十月二十八日

だいております。

毎朝うれしそうに着用、にこにこ作業に励んでおります。本来なら通所者本人の礼状を差し上げるべきですが、書ける人がおりませんので代筆させていただきます。

私の作業所は、あなた方の学校からは東方、鬼怒川のほとりです。こちらにおいてになることも少ないでしょうが、お出掛けの折には是非お立ち寄り下さい。みんなでお待ちしております。朝夕のラッシュの中、充分気を付けていただき勉強にお励み下さい。向寒、充分御自愛下さい。

生活教養科

- 一年十組 安井 愛 美様
 - 一年十組 吉野 友美子様
 - 一年十一組 大野 麻 美様
- 十一月一日

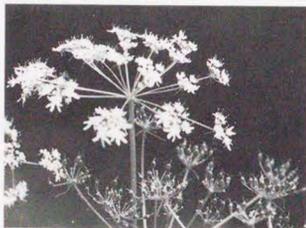
大曾作業所指導員一同様より

心のこもった手作りのエプロンを今年も有難うございました。ポケットの裏に止め布が付いていたり、それぞれ個性あふれる布地に夢があり、一枚、

七七七、七七七円を寄託

阪神大震災の見舞金

一月の阪神大震災では多数の死者、行方不明者を出し都市型地震による未層有の大きな被害をこうむりました。このため本校では、高校・中学の職員、生徒からお見舞金を募集しましたところ七十七万七千七百七十七円が集まりましたので、一月二十六日に古川ゆかり生徒会長(高校)や吉新拓世会長(中学)の皆さんが下野新聞社に寄託いたしました。皆さんご協力ありがとうございました。



花 3年 石川 学(写真部)

校 史 と 校 章

本学園は、平成7年で創立95周年になり、もうすぐ100周年を迎えようとしています。創立者、須賀栄子先生は、女子に最も適切な技芸を教授し、その時代と境遇に順応すべき実際の婦人の養成を教育の主旨とし、共和裁縫教習所から、共和裁縫女学校、宇都宮須賀女学校、宇都宮女子高等職業学校と校名を改め、発展させてゆかれました。その後を須賀友正先生が受け継がれ、学制改革により、宇都宮須賀高等学校となり、さらに、宇都宮短期大学を設置し、高校も宇都宮短期大学附属高校と改名されました。友正先生の後を受け継がれたのが、現校長先生でいらっしゃる須賀 淳先生です。先生は宇都宮短期大学附属中学校を設置し、ますます学校を発展させて、現在に至っております。

我が校の生活目標である「一人は一枚を代表する」という言葉の意味は、生徒一人一人が、それぞれに、本校生徒としての価値を知り、その価値を自覚することこそ、人間の大きな喜びであり、幸福への素材であるとし、学校はそのあり方を勉強する場であるというのが、須賀栄子先生のお考えです。私たちは現在、この言葉を胸に、本校生徒としての価値を認識し、生活しています。

本校には、現在に至るまで、いくつかの校章がありましたが、現在使われている校章の由来は、創立者須賀家の祖先が武士の旗印として使っていた、「ス」の文字を3つ組み合わせたものです。

「ひめまつ」第四十九号（非売品）
平成七年三月九日印刷発行
宇都宮市睦町一番三五号

編集人 須賀 問 和久 誠

発行人 生徒会長 古川 ゆかり

印刷所 宇都宮市鶴田町一三五九の一

ヤマゼン印刷株式会社

〇三六(株)一三一

印刷人 山本 征一郎

発行所 宇都宮短期大学附属高等学校生徒会
〒320 TEL〇二八六(四一六一)三番